



最上中学校だより
 <校訓> 8月号
 時を守り
 場を清め
 礼を正す
 令和7年8月21日
 TEL 0233-43-4115



学力・学習状況調査結果より

4月14日(月)・17日(木)に全国の中学3年生を対象に行われた調査で、本校の結果は、右のようになりました。◆**国語**では、『資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる』問題の正答率が全国平均を上回っており、『文脈に即して漢字を正しく使うかどうかをみる』問題や『読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる』問題の正答率が下回っていました。◆**数学**では、『素数の意味を理解しているかどうかをみる』問題や『事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる』問題の正答率が県平均を大きく上回っていたものの、『多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる』問題や『不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるかどうかをみる』問題の正答率がたいへん低くなりました。◆**理科**では、『音の高低に関する情報を収集してまとめを行う学習活動の場面で、資料や情報の信ぴょう性についての知識・技能が身に付いている』問題は全国平均を大きく上回っていたものの、『地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる』問題がたいへん低くなりました。●本校では、これらの課題を全教科で共有して、一人一人がさらなる課題に挑戦する「探究学習」の授業づくりに継続して取り組み、改善を図っていきます。

	県平均との比較
国語	下回る
数学	下回る
理科	下回る

今後の学習強化ポイント

- <国語> 文章を手書きで漢字を使って書く。
- <数学> 毎時間における復習の時間を増やし、関数や図形の単元における基礎・基本の定着を図る。
- <理科> 基本的知識の習得とその知識を活用する機会をさらに増やす。



生徒質問紙より



全国より優れているもの 全国の割合との比較

全国より劣っているもの 全国の割合との比較

- ◎学習塾や家庭教師の先生に教わっている。(+33.3%) ▲ICT 機器を毎日の学習で活用している。(-23.4%)
- ◎毎日同じくらいの時刻に起きている。(+12.6%) ▲読書は好きですか。(-18.1%)
- ◎自分にはよいところがある。(+10.3%) ▲国語や数学の勉強が好き (- 13.9%) 2教科平均



東北大会・県大会の結果です。

8月3日（日）山形県吹奏楽コンクール（中学校小編成の部）「銅賞」

：やまぎん県民ホール大ホール

8月6日（水）東北大会 低学年4×100mR タイムレース決勝 記録 48秒30 「19位」

：福島市信夫ヶ丘陸上競技場（早坂晃誠さん、板垣咲真さん、保科凜永さん、板垣晴磨さん、高橋智弥さん）

小・中学校青少年赤十字リーダーシップ研修に参加しました。

2年生の生徒会役員立候補予定者の遠藤悠吾さん、大場結花さん、長島瑠位さんの3名が8月1日（金）に実施されたリーダーシップ研修会にオンラインで参加しました。参加した県内や最上地区の小・中学生の41名と交流しました。午後からの参加となりましたが、初めに最上中学校の学校紹介、その後はグループに分かれて、各学校で行っているJRC活動、これからの生徒会活動で大切にしたいことや実現したいことなどを他校の生徒会役員候補者と意見を交換しました。終了後の3名からは、『学校のリーダーの一員になるということは、とても難しいことだとあらためて感じた。』『赤十字の考え方を全校に共有して、みんなの意識を変えて活動をより活発にしたい。』『他の学校の活動から、生徒数が少ないからこそ実施できる活動だったり、学校の立地条件を生かして活動したりしている内容が多くて参考になった。』と感想がありました。生徒会の活動も2学期からは3年生から2年生に引き継がれます。是非とも、今回のリーダーシップ研修で参考になったことを新たな最上中の生徒会活動に活かしてほしいと思います。



復刻版『羽前最上 小国郷のトント昔コ』の冊子を頂きました。



7月30日（水）に「とんと昔この会」会長の二戸 拓さんと会員の小嶋知恵さんが来校し、復刻出版された冊子をいただきました。この冊子は佐藤義則氏が書かれたもので、昭和41年にざら紙で200部のみ製作されましたが、60年の年月が経ち、経年による劣化と流通の限られた初版だったために貴重な冊子となっていました。そこで復刻版を製作し、羽前最上・小国郷に伝わる昔話は、これまでこの土地で生きてこられた人々の息づかいを伝える宝でもあります。郷土の歴史と文化を継承する機会となればということで寄贈いただきました。佐藤義則氏が生前、心血を注ぎ、作成した、郷土・最上町の貴重な民話や昔話を今後も引き継いでいきたいと思っています。図書室においてあります。生徒の皆さんは是非とも手に取って読んでほしいと思います。

夏休みすぐの『もがみサポート塾』の学習の様子から



夏休み初日の7月28日（月）から31日（木）の4日間の午前中で「もがみサポート塾」の方々が主催する『夏休み自主学習会』が開催されました。1～3年生の希望者が集まり、2つの教室を使って夏休みの課題に取り組み、学習課題を学習支援ボランティアの方々から教えていただく姿が見られました。学力・学習状況調査の生徒質問紙の「学習塾や家庭教師の先生に教わっている」という項目の数値が全国よりも高いのは、平日の放課後も学習支援ボランティアの皆さんから教えていただ

いていることが大きく反映していると考えます。3年生は2学期からそれぞれの進路に向けての受験対策の学習が本格化します。高校に入学するための学習の充実ではなく、入学前後により多くの選択肢を選ぶことができるように中学3年間の学習内容を身に付けてほしいと思います。

学習支援ボランティアの皆さん、今後とも生徒たちのサポートをよろしくお願いたします。

